

# かごしま 祭時記

興味を持ってもらい  
伝統をつないでいきたい

肝付町文化財保護審議会委員

くろき かずと  
黒木 和人 さん(79)

神舞は男子だけが舞う神聖なもので、神社を中心に氏子や地域住民で守ってきました。今では子どもや若者の数が減り、このままでは神舞の継承が難しいため、地元以外でも興味のある人に教え、神舞を残したいと思っています。岸良の古い歴史も調べて記録に残していますが、多くの人に岸良に興味を持ってもらうことで、文化や伝統を守り、後世につなげていきたいと考えています。



さるたひこのみこと  
平田神社に伝わる猿田彦命の神面→

## 肝付町岸良／平田神社 ナゴシドン

### 岸良海岸で披露される

### 伝統の神舞

8月14日の夕刻、大隅半島の東にある白浜の美しい海岸で神舞が行われます。海神に神舞を奉納し、五穀豊穡、無病息災、招福を祈るこの行事は、肝付町岸良で700年以上続くといわれる「夏越祭り」で、地元では「ナゴシドン」と呼ばれています。

祭りは午後3時頃、平田神社の祭神、猿田彦命、大山祇命、金山彦命の神霊を3つの神面に遷す神事から始まります。神面三体は神社から近くの岸良海岸へ運ばれ、海水で清められた後、海を背に一列に立てられます。その後、巫女舞と、平田神社に伝わる神舞の一つである薙刀舞が奉納されます。

「平田神社の神舞は戦前には20以上あり、夜通し奉納していたそうです。現在は町の無形民俗文化財として8つの神舞が伝えられています。今では舞い手が減ってしまい、毎年奉納しているのは薙刀舞だけですが、5年ほど前までは山の神舞を、昨年は6人の中学3年生によって16年ぶりに十二剣舞を奉納しました」と語る

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から肝付町岸良に伝わる「ナゴシドン」をご紹介します。

のは、肝付町文化財保護審議会委員の黒木和人さんです。黒木家は代々、薙刀舞を受け継いできた平田神社の氏子。黒木さんは就職で岸良を離れましたが、20年ほど前に地元へ戻り、薙刀舞を復活させました。

波打ち際に立てられた赤い神面の前で、薙刀を大きく振り回しながら舞う薙刀舞。その勇壮な姿を、地域住民や帰省客らが固唾を飲んで見守ります。その後、見物客らは茅で作ったしめ縄をくぐり、無病息災を祈願します。

継承の危機にさらされながらも続いてきたナゴシドン。「絶やさずに続けていくことが継承者を育てることなんです」と語る黒木さんは、今年も伝統の神舞を披露します。



肝付町

### 肝付町

肝付町は、平成17年に高山町と内之浦町が合併して発足した総人口16,643人(平成26年4月30日現在)のまちです。大隅半島南東部に位置し、町面積の80%以上を占める林野地帯、50kmに及ぶ美しい海岸線が特徴です。写真は肝付町南方にある「内之浦宇宙空間観測所」。平成24年で開設50周年を迎えました。昨年は新型固体燃料ロケット「イプシロン」の打ち上げに成功し、全国で話題となりました。